

「はこだて湯の川の取り組み」

市民が地域の魅力を認識・街を楽しめる機会づくり

旅館経営者でも商店主でもない星野氏が、取り組みはじめた湯の川温泉でのオンパク。
どのように仕掛けていったのかお話し頂いた。<http://hakodate.onpaku.com>

- まず、地元住民が地域の資源や魅力を認識するところから
- 将来的に地元と観光客双方が一緒に<いつでも何か楽しめる>環境へ
- ターゲットやPRなどにマーケティングの視点を

■ 地域の人が自分の地域を説明できない現実

湯の川温泉がいつのまにか地元人には<遠い所>になってしまっていた。まずは地元の人が地域の良さを認識することが必要だと、別府市で取り組んでいたオンパクを開催するに至った。開催にあたり、別府からあらゆるノウハウを提供して貰っている。将来的には「いつでも何か楽しめる」環境を作り、観光客と地域住民が交流できるようにしたい。

■ 第1回オンパクの反響

2006年10月21日～16日間で延べ181回、参加者1,951名。「温故知新」をテーマに、旅館の板前さんによる料理教室やまち歩きなど1,000～3,000円のプログラムを提供。「これがあったから徐々に湯の川に来た」という感想を頂けたのが事務局として嬉しい。事前を含め新聞に60回以上取上げられ、TVでも再三放映され湯の川の知名度アップにも貢献。

■ 実施のポイント

ターゲットやプログラム作り、PRなどについて、別府の経験に学びながら、メインターゲットの女性が喜ぶ仕掛けやリピーター確保の為に会員制度などのマーケティングを展開している。別府の予約システムを活用する、開催会場を稼働率の低い「昼間の宴会場」にするなどコスト削減も図っている。

■ 今後の課題

3回目以降は地元の人たちだけで運営できるよう、人材や資金を担保していくことが必要。また、リピーターとして来られる方の期待を裏切らないようプログラムの質の維持・向上の努力も重要。

「取り組みが地域全体の活性化に繋がるという意識を持つ事が大事」（星野氏）というように、観光客と地元住民とが街を楽しみ・交流できる一種の「シティーツーリズム」（丹羽氏）に繋がる仕組づくりが求められる。

別府八湯温泉泊覧会

<オンパク>

「温泉の心地よさ」、「知らなかったまちの表情」、「広がる自然の美しさ」、「美味しい食に出会う」、「健康&美を楽しむ」をコンセプトに別府の魅力を発見するプログラムを提供するイベント。年2回実施し既に10回を数え、日常化したプログラムもある。<https://www.onpaku.jp/com/>